

湿布とエレキバンの海外事情

このムービーを作成するにあたって「検査前に湿布を取り外す指示はなんと言えいいの」と協力者である英国人に聞いた。ところが、英国では湿布とかエレキバンはあまり普及していないとのことであった。彼曰く、「湿布とかエレキバンをつけた外人は長年日本に住んでいて、日本語はペラペラだよ」。彼も日本通のようであった。このように外国ではあまり一般的ではない湿布であるが、最近では日本で馴染みの深い湿布を海外でも販売するようになり、TVコマーシャルにも登場しているそうだ。

では、湿布のことをどのように表現するのだろうか？ 一般的な表現方法は“compress”で、冷湿布なら“cold compress”，温湿布なら“hot compress”と言う。ついでに絆創膏は“adhesive plaster”，または“adhesive tape”と言う。

久光製薬・岡田氏によると、日本で普及している湿布はパップ剤とプラスター剤に大別できるそうだ。パップ剤は白いフェルトの布に水分を含んだ薬を貼付したもので、プラスター剤は薄くて目立たない色で油性の薬剤を使用している。パップ剤の湿布はX線撮影で障害陰影として描出される。プラスター剤は薄いため、さほど障害陰影は発生しない。しかし、原則的には剥がすべきである。ちなみに、パップ剤湿布薬を“gel patch”，プラスター剤湿布薬を単に“patch”と呼んでいるそうだ。